

ベトナム過積載車両の取締りに日本企業の技術導入へ

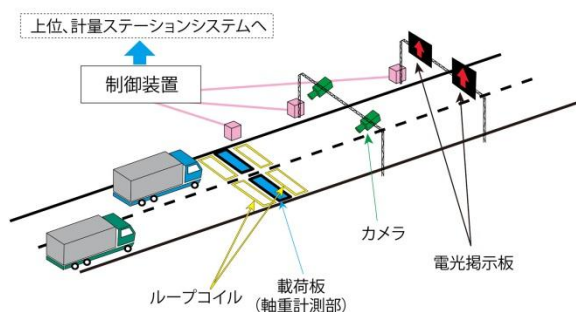
JICA 中小企業支援で田中衡機工業所の走行計量システムを採用

日本の「はかり」の技術が、ベトナムの社会問題解決のために役立てられるか―。国際協力機構(JICA)は「中小企業海外展開支援 普及・実証事業」の一環として、株式会社田中衡機工業所(新潟県三条市)と同事業に関する契約をこのほど締結した。

同社は総合的な「はかり」メーカーとして、1903年に新潟県三条市で創業。以来、様々なはかりを製造し、技術を磨いてきた。今回同社がベトナムで展開しようとするのは、道路に埋め込む形で計量器を設置し、走行している車両の重量を計量する「走行計量システム」。ベトナムでは急速な経済発展に伴い、過積載トラックが大幅に増加しており、陥没やうねりなど道路にダメージを与える原因やブレーキの効が悪くなることなどによる事故の危険性の高まりの原因にもなっている。

そこで同社の「走行計量システム」をハノイ近郊の国道5号線に埋設し、過積載車両を走行した状態で識別できるようにし、警察と連携してこれを取り締まることを同事業で実証する。計測だけでなくカメラでのナンバーの撮影やそれらデータの即時送信などが可能であり、過積載車両を漏れなくチェックできることが特徴だ。さらに同システムの売りは「堅牢性」。ベトナムの高温多湿の気候にあっても壊れにくく、アフターサービス体制も整う。

「走行計量システム」の概要



設置予定場所。多くの大型トラックが往来している。

同社の田中康之社長は、「ベトナムの過積載車両の問題は非常に大きく、これを解決するには定期的なメンテナンスや継続した製品改良が必要。このため当社現地法人のほか、現地の企業とも協力しながら、当社の技術をベトナムに根づかせ、成長させていくことで本質的な問題解決となる事を目指します。日本での100年以上の経験から、当社が提供するの計量器という装置ではなく、お客様が必要とする正しい計量値であり、その信頼できる計量値を維持させることだと考えます」と同事業の目的を語っている。

※この取り組みは、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、現地での適合性を高め、普及を図ることを目的とした「普及・実証事業」として実施されるものです。2014年3月に第3回の公示を行い、本事業が採択となりました。